

CNALレポート・ジャパン

Conferencing industry News report, research & Analysis - CNA Report Japan

創刊：1999年12月

発行日：毎月15日・月末

取材・編集・発行：橋本啓介

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム専門 定期レポート

Vol. 14 No.3 2012年2月15日号

編集:editor@cnar.jp 広告:pr@cnar.jp 読者登録:<http://cnar.jp>

Copyright 2012 CNA Report Japan. All rights reserved.

製品・サービス動向-国内

リコー、720p 対応据置型のテレビ会議システムを発売、同社新規事業 UCS の第二弾製品

株式会社リコー(東京都中央区)は、2011年2月に発表した、クラウドサービスを軸とした新規事業「ユニファイドコミュニケーションシステム(UCS)」の第二弾の製品として、「RICOH Unified Communication System S7000(リコー ユニファイド コミュニケーションシステム S7000)」を新発売する。(1月19日)



RICOH Unified Communication System S7000(リコー資料)

第一弾の製品(2011年8月)としては、ポータブルで無線LANに対応した「リコー ユニファイド コミュニケーションシステム P3000」を発売。ネットワーク環境があれば場所にとらわれず高品質な映像コミュニケーションが行える持ち運びに便利なコンパクトと軽量設計が特長。

今回発表した S7000 は、H.264/SVC などシステムの性能と機能については基本的にP3000と同じではあるが、据置型の製品という位置づけで、6~10人が参加する会議を想定している。また、高品質な情報共有の実現を目的とした製品のため、映像については 720p30fps(1280x720)の高解像度に対応させ、それに合わせてネットワークの接続は、有線LANとし

た。

「今回の S7000 の発表により、ポータブルな映像コミュニケーションへのニーズから、会議室での多人数の使用を想定したニーズにも対応することができるようになった。より多くのお客様に当社のソリューションをご利用いただける機会が広がるのではないかと期待している。たとえば、S7000 を本社に設置し、その他の拠点では、P3000 を組み合わせるといった組合せも可能だ。

」(リコー)

S7000 のカメラは、HD 対応のパンチルトズームカメラ。有効画素数は、約 200 万画素。ズームは 40 倍(光学 10 倍、電子 4 倍)に対応している。水平角度は、約 8~70 度。「カメラの性能は、10 人程度が座っている会議テーブルを想定している。また、会議テーブルの奥にホワイトボードがあっても、ズームを使うことで文字がはっきり読み取れる。」(リコー)

S7000 でのテレビ会議中の多地点接続は、最大 20ヶ所まで同時接続が可能。加えて、同時に表示できる拠点(多画面分割、CP)は、9ヶ所までとなっている。

資料共有については、S7000 本体とパソコンを USB 接続するのみ。あとは、パソコン画面に資料共有ボタン(ON)が表示されるので、それをクリックすることで、お互いに共有することができるようになっている。

アドレス帳については、クラウドサービス側で管理しているため、ユーザ側では常に最新のアドレス帳から相手を選択してテレビ会議を始めることができるようになっている。

今回の製品発表とは別に、1 月には新しいファームウェアを提供(P3000 と S7000 両方適用)する。そのうちのひとつにネットワークの帯域状態をテレビ会議中の画面にリアルタイムに表示する機能を追加。これにより接続品質の可視化が可能になった。

マイクスピーカーと表示機器は別売。ヤマハ製の PJP シリーズのマイクスピーカー「PJP-50USB」と「PJP-100UH」、そして、リコー製のプロジェクター「IPSiO PJ WX4130」と「IPSiO PJ WX3131」を推奨している。

「別売となっているが、会議室の広さや用途に合わせて選べるようにした。」(リコー)

この S7000 を使用するには、P3000 と同じく同社が提供するクラウドサービスをまず契約する必要がある。サービスには、「シングルフラット 15」と「ダブルフラット 6-25」がある。シングルフラット 15 は、月額 15,000 円の定額制。一方、ダブルフラット 6-25 は、月額基本料金(6,000 円:5 時間利用分込み)に利用料金(15 円/分)。25,000 円の上限付従量制となっている。なお、詳細については同社に確認要。

このユニファイドコミュニケーションサービスを開始して以来、ユーザへの提案・導入が増えていると同時に、リコー社内でも各部署で利用が広まっているという。交通費削減の効果だけでなく、時間の有効活用による効率的な働き方を実現しつつある。社内での利用実績を今後の顧客への提案に活かしていきたいとしている。

リコーの担当部署は、新横浜事業所 NA 事業部事業推進室。

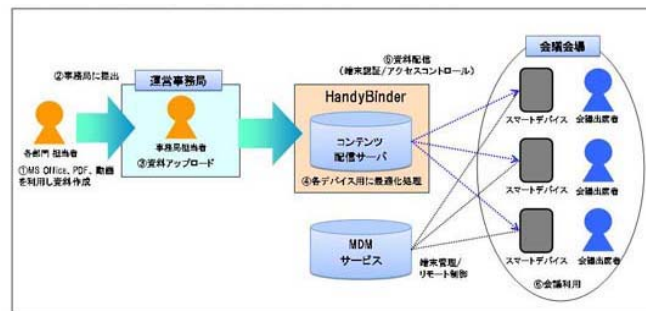
凸版印刷、スマートデバイスを利用したペーパーレス会議ソリューションの販売開始

凸版印刷株式会社(東京都千代田区)は、同社が現在提供しているコンテンツを作成・配信するサービス「HandyBinder(ハンディバインダー)」に、機能追加することでペーパーレス会議システムとして提供すると発表。(1 月 16 日)

HandyBinder は、タブレット端末やスマートフォン向けに PDF やマイクロソフトオフィスで制作したコンテンツを、作成・配信する ASP サービス。社内会議の他、営業や MR 向けのプレゼンテーションツールとしての用途を想定する。

技術は、インフォテリア株式会社が提供するスマートフォン向けコンテンツ作成・配信サービス「Handbook」をエンジンと

して採用した。



HandyBinder ペーパーレス会議ソリューション フロー図 (凸版印刷資料)

HandyBinder は、企画書、マニュアル、会議資料といったコンテンツを、HandyBinder サイトにアップロードすると、タブレットやスマートフォン向けに自動変換され、配信される仕組み。

機能としては、PDF ファイルへの手書きメモ機能、MDM (モバイルデバイスマネジメント) サービスと連携した端末管理・盗難紛失対策などの他、セキュリティの面では、操作ログの出力、端末個別認証、アクセス権コントロールがある。

凸版印刷では、2010 年 4 月から同システムを導入し社内報告会議の参加者にスマートデバイスを配布して試験導入し運用している。この運用ノウハウの蓄積を活用して、端末手配から、運用設計、運用サポートまでトータルでサポートするコンサルティングも今回上記サービスに加え提供する。

なお、試験運用において、導入前に社内会議で発生していたコピー用紙・印刷費用・運営人件費を年間で 85%削減する効果があったという。加えて、会議出席者の 80%がペーパーレス会議に対して満足しているという。

ASP サービスでの提供により、コンテンツ作成、配信システム、ビューワーの開発をする必要がないため、低価格での利用が可能という。また、コンサルティングを合わせて利用することで、さらに運営コストを加えた削減ができるという。

ASP 版は、利用容量が 500MB/ユーザ数 500ID で 20,000 円/月。追加容量 500MB ごとにプラス 20,000 円/月。

一方、パッケージ版は、専用サイトライセンス費用が1,800,000円。年間保守費用は、270,000円。詳細は、同社へ確認要。

凸版印刷によると、ペーパーレス会議ソリューションとして、2012年度に関連受注を含め1億円の売上を目指すとしている。

今後同社では、HandyBinderを利用したペーパーレス会議ソリューションを展開していきながら、スマートデバイス領域で、プレゼン支援、日報/スケジュール管理、情報共有システムも合わせて提供し、ユーザの営業活動をトータルに支援していく考えだ。

ポリコムジャパン、エントリーレベル向けオールインワン型デスクトップ マルチメディアフォンを発売

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、オールインワン型デスクトップ マルチメディアフォン「Polycom VVX500」を発表した。(1月11日)



Polycom VVX 500(ポリコムジャパン資料)

このPolycom VVX500は、2009年に発表したビジネスメディアフォンシリーズのエントリーレベルという位置づけで、企業向けの機能を備えた電話機。しかし大規模から中小規模まであらゆる企業に最適という。

「Polycom Productivity Suite(ポリコムプロダクティビティスイート)」アプリケーションを採用。VoIP(Voice Over IP)の通話ができるほか、Web コンテンツにアクセスできるブラウザ機能

やストリーミング機能、セキュリティ機能などを搭載している。また、PC、電話、Web に保存されたスケジュール機能へのアクセス、最大4人までの会議を設定・管理できるようになっている。

本体には、USBポート(2)、イーサネットポート(2)、ハンドセット、ヘッドセット用ジャックなどを搭載している。

その他、IP-PBX 企業内電話システムとの相互運用、アプリケーションの開発などにも対応しており、カスタマイズによって、他社 UC アプリケーションや業務支援アプリケーションを統合することも可能だ。

今後、USB ビデオカメラ(オプション、2012年中に発売予定)や Bluetooth ヘッドセットのサポート(時期未定)も予定されている。

Polycom VVX500は、1月11日よりポリコムの認定販売代理店を通じて販売開始されている。

ポリコムジャパン、アナログ回線とVoIP回線の両方に対応した音声会議システム発売

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、アナログ回線とVoIP回線の両方に対応した音声会議システム「Polycom SoundStation Duo(ポリコム サウンドステーションデュオ)」を発表した。(1月11日)



Polycom SoundStation Duo(ポリコムジャパン資料)

Polycom SoundStation Duoは、中小規模の会議室向け(約37m²以下)向けに設計されており、3つの高感度マイクを搭載、3m離れた話者の音声を360度から集音する。また「Polycom HD Voice」やエコーキャンセラ(「Polycom

Acoustic Clarity)」に対応するとともに、携帯電話や無線器機の干渉を抑制する技術を搭載することで高品質な音声品質を実現している。

Polycom SoundStation Duo は、アナログ回線とVoIP 回線の両方に対応する。加えて、一方の回線が停止した場合、他方の回線に自動的に切り替わる機能を持つ。

両方に対応する理由としては、「近い将来、VoIP 設備に投資する必要があることを認識しながらも、現在のアナログ電話回線の需要にも対応しなければならない企業や組織に対して、Polycom SoundStation Duo は、比類のない長期的な投資保護を実現する。」と同社は説明している。

その他、複数の VoIP 通話プラットフォームと相互運用し、他の UC デバイスと簡単に接続、Web 設定ツールで簡単にセットアップ、Polycom RealPresence ソフトウェアによるデスクトップ PC への接続などの機能を提供している。

販売は、1 月 11 日よりポリコム認定販売代理店を通じて開始されている。

ポリコムジャパン、ホワイトボードソリューションを発表

ポリコムジャパン株式会社(東京都千代田区)は、ホワイトボードソリューション「Polycom UC Board」を発表した。(1 月 11 日)



Polycom UC Board : レシーバーと専用ワイヤレスペン(ポリコムジャパン資料)

Polycom UC Board は、HDX シリーズのビデオ会議システムと組み合わせて、液晶モニターやディスプレイをホワイトボードとして利用することができるビデオコラボレーション用統合型ホワイトボードテクノロジー。

営業プレゼン、ブレインストーミング、企画会議、企業研修・教育などで活用できる。また、「Polycom RealPresence プラットフォーム」によって、ホワイトボードコンテンツの記録やストリーミングも行える。

ホワイトボードは重要なコミュニケーションツールだが、ビデオ会議で使用する場合に、遠隔地にいる参加者はホワイトボードの内容が見えづらいといった問題がある。こういったことから今回の Polycom UC Board の製品発表に至ったようだ。

Polycom UC Board は、赤外線センサーを搭載したプラグアンドプレイのレシーバーに専用のワイヤレスペンを提供。テレビ会議用のホワイトボードとして使うためには、レシーバー本体を液晶モニターやディスプレイに装着し、テレビ会議システムと USB 接続をする。セットアップは数分で行うことができ、操作についてもスキルやトレーニングは不要という。



Polycom UC Board 利用シーン例：レシーバーが左側に装着されている例(ポリコムジャパン資料)



Polycom UC Board 利用シーン例：相手側からみた様子(ポリコムジャパン資料)



Polycom UC Board 利用シーン例：レシーバーがディスプレイ装着されている例（ポリコムジャパン資料）

USB 接続を行うとディスプレイがホワイトボードとなる。書き込み面には、専用ペンが触れた時点で動作するようになっており、その画面に専用のワイヤレスペンで、書き込んだり、注釈をつけたり、あるいは重要箇所をハイライト表示することができるようになっている。

Polycom UC Board は、Luidia 社の「eBeam テクノロジー」を採用している。eBeam は、平らな面をコラボレーション用のワークスペースに変換し、デジタルコンテンツを簡単にキャプチャーしたり共有したりできるようにするシステム。現在、数十万台の eBeam システムが世界のさまざまな業界で利用されているという。

ラドビジョンジャパン、SCOPIA Video Gateway for Microsoft Lync がマイクロソフト社 Lync と OCS に対応した UC ソリューションとして正式認定

ラドビジョンジャパン株式会社（東京都台東区）は、同社の「SCOPIA Video Gateway for Microsoft Lync」が、マイクロソフト社の「Lync」や「OCS」などのユニファイドコミュニケーション製品群との接続性において正式に認定されたと発表。（1 月 17 日）

SCOPIA Video Gateway for Microsoft Lync は、拡張性と動的資源配置 (dynamic resource allocation) に特長があるゲートウェイ製品。今回の認定により、既存の Lync 環境に新しいビデオ会議システム専用端末をスムーズに導入することができるのと同時に、双方のユーザが自由にコミュニケーションを

行えるようになる。また、ユーザインターフェイスにおいては、Lync で使い慣れた“クリック・ツー・コミュニケーション”をビデオ会議システムにも拡張することで、簡素で一貫性のあるユーザインターフェイスが提供可能となるという。たとえば、Lync のコンタクトリストに、Lync クライアントだけでなく H.323 端末も表示が可能だ。さらには、TLS や SRTP によるセキュリティのみならず、ファイアーウォールトラバーサルによる企業間のシームレスな接続を提供する。

ルーシッドの電話会議サービス、海外アクセスオプションに中国（北京）を追加

ルーシッド株式会社（東京都渋谷区）は、同社が提供する電話会議サービス「Bizspeak (ビズスピーク)」の海外アクセスオプション「アジア・太平洋地域プラン」に中国（北京）を追加したと発表。（1 月 20 日）

今回新たに北京において電話会議アクセス番号を提供開始する。定額料金 1,575 円 (30 日間使い放題プラン、自動更新) で、中国およびその他のアジア太平洋地域 (香港、ベトナム、シンガポール、オーストラリア) から日本との電話会議にアクセスする際に、国内通話料で利用することができるようになる。

この料金は、たとえば、中国-アメリカ-日本の 3 カ国間会議、あるいは、中国-ベトナム-アメリカ-日本の 4 カ国間会議を開催する場合にも適用可能。1,575 円の定額料金で何回でも国際電話会議を実施できるという。

30 日間使い放題以外にも、3 ヶ月使い放題プラン (4,725 円/ID/5 カ国) と、12 ヶ月使い放題プラン (15,750 円/ID/5 カ国) も提供している。

同社では、今後その他の国からのアクセスについても、順次提供を予定している。サービス利用には、Bizspeak 会議 ID と国際サービスへの申込が必要。詳細は同社に確認要。

(次ページへ続く)

製品・サービス動向-海外

PGi 社の iMeet、Evernote とシステム連携、会議中と後に Evernote のファイルへのアクセスと共有が可能に

米 PGI 社は、同社が提供するウェブベースのビデオ会議ソリューション(web-based video collaboration)「iMeet(アイミー)」と、テキストや音声、写真、動画などを保存できる「Evernote」サービスとのシステム連携を行ったと発表。(1月3日)

これにより、iMeet での会議中あるいは後に、Evernote に保存されている、ノート、ドキュメント、ウェブサイト、写真などを共有したり、そのファイルにアクセスしたりすることができるようになる。加えて、To Do List の作成もできる。会議の参加者だけでなく参加できなかった人もファイルへのアクセスや共有が可能だ。

米 Vidyo 社のビデオ会議システム、Kindle Fire と Android 4.0 に対応

米 Vidyo 社は、同社の H.264/SVC ベースのビデオ会議システムがアマゾン社の「Kindle Fire」と「Android 4.0 Ice Cream Sandwich」に対応したと発表。(1月10日)

これにより、同社のビデオ会議システムは、デスクトップ PC、ラップトップ PC、専用端末に対応するほか、今回の発表で「Vidyo Mobile HD」が、iOS、Android、Kindle Fire に対応することになる。

なお、対応したスマートフォン、タブレットは、Kindle Fire、iPad2、iPhone 4S、Samsung Galaxy Tab 10.1、Motorola Xoom、Samsung Galaxy S II、Samsung Galaxy Nexus(Ice Cream Sandwich 対応)。

ビジネス動向-海外

新たなライフサイズ社 CEO に Colin Buechler 氏就任

ロジテック社(日本法人:株式会社ロジケール)のビデオ会議部門である米ライフサイズ社は、Colin Buechler 氏が同社の新しい CEO に、また、9年間同社にリーダーシップを取っ

てきた前 CEO Craig Malloy 氏は、取締役会会長にそれぞれ就任したと発表。(1月10日)



Colin Buechler 氏(写真左、ライフサイズ社資料)は、2007年にライフサイズ社のシニアバイスプレジデントに就任以来、go to market 戦略の展開

やプロダクトロードマップ策定などでリーダーシップを取ってきた。その間、売上高の強い伸びを継続し、社員数は、500人を越えるところまで増え、グローバル企業に成長した。

ロジテック社 CEO Guerrino De Luca 氏は、Craig Malloy 氏のこれまでの成果を称えるとともに、Colin Buechler 氏のビジネス戦略策定と実行におけるこれまでのキャリアとしての経験、そして、ライフサイズ社におけるセールス&マーケティングでのこれまでの実績から、今後の CEO としての職責に期待を寄せる。

Colin Buechler 氏は、ビデオ会議システムを日々使われるビジネスコラボレーションのツールとして普及させたいと抱負を述べる。モビリティ、クラウド、インフラストラクチャ、さらには、ユーザ使用における簡便さや TCO 削減を重点項目として取り組んでいく意向だ。

導入・利用動向-海外

GP シナジー社、ラドビジョン社のエンドツーエンドビデオ会議ソリューションと保守サービスを導入

イスラエルのラドビジョン社の発表によると、オーストラリアの GP シナジー社が、ラドビジョン社の HD ビデオ会議システムを導入した。(2011年12月13日)

GP シナジー社は、シドニーとニューサウスウェールズ州

西北部で一般開業医向けの教育・研修サービスを提供する会社。

今回、ラドビジョン社とVMテックが共同で、エンドツーエンドソリューションをカスタムソリューションとして構築。また保守サービスも提供する。導入したシステムは、H.264/SVC や「NetSense (帯域制御技術)」に対応した「SCOPIA MCU」、「SCOPIA VC240」、「SCOPIA Desktop」など。GP シナジー社では、教育・研修サービスの提供範囲を拡大するため、管理業務と取締役会で活用する。

他社 HD ビデオ会議システムを導入していたが、使用感が直感的ではない、ネットワーク接続が不安定の中では映像品質が貧弱である、現場のスタッフが使いこなす余裕がないなど理由から、今回ラドビジョン社のソリューションを導入することにした。

セミナー・展示会情報

< 国内 >

会議の効率化を実現！『ConforMeeting 無料体験セミナー』定期開催

日程:2月15日(水)、22日(水)、29日(水)
 ※全ての日程で13:30~14:30、15:30~16:30の2回開催
 会場:NEC 情報システムズ 本社(東京都港区)
 主催:日本電気株式会社、株式会社 NEC 情報システムズ
 詳細・申込:<http://www.nec-nis.co.jp/topics/event/conformeeeting/seminar.html>

The Avaya Flare; Experience Day in Tokyo
 ~ 新しいコラボレーションの形を体験 ~

日時:2月15日(水) 13:30~ (受付13:00)
 場所:六本木ヒルズ森タワー(東京都港区)
 主催:日本アビア株式会社
 協賛:伊藤忠テクノソリューションズ株式会社、エス・アンド・アイ株式会社、三井情報株式会社
 詳細・申込:http://www.ibma.jp/avaya_event/

パイオニア 会議ソリューション展示会

日時:2月17日(金)13:30 ~ 18:00
 会場:パイオニアソリューションズ(東京都新宿区)
 主催:パイオニアソリューションズ株式会社
 詳細:
http://pioneer.jp/ccs/catalog/pdf/ccs/120217_exhibition.pdf

< 海外 >

UC EXPO

日時:3月6日~3月7日
 会場:イギリス、ロンドン、Olympia London
 主催:Imago Communications
 詳細・申込:<http://www.ucexpo.co.uk/>

TeleSpan's Seventh Annual Future of Conferencing Workshop

日時:3月15日-3月16日
 会場:アメリカ ラスベガス
 主催:TeleSpan Publishing Corporation
 詳細:<http://www.telespan.com/workshop/index.html>

EnterpriseConnect 2012(旧 VoiceCon)

日時:3月26日~3月29日
 会場:アメリカ フロリダ州オーランド Gaylord Palms Resort & Convention Center
 主催:United Business Media company
 詳細・申込:<http://www.enterpriseconnect.com/orlando/>
 *遠隔会議システムメーカーで出展しているところもある。

dtc-forum、ツイッター、フェイスブック

ツイッターとフェイスブック、dtc-forum を通して遠隔会議関係のニュースなど関連情報を日々配信しています。よろしければご覧ください。

>dtc-forum メーリングリスト

<http://cnar.jp/cna/dtcforum-ml.html>

> Twitter

日本語版: <https://twitter.com/cnarjapan>

英語版: <https://twitter.com/cnarjp>

> Facebook

「テレビ会議・Web 会議・電話会議 & ユニファイドコミュニケーション研究会」

<http://www.facebook.com/unifiedcom>

編集後記

今号もお読みいただきましてありがとうございました。

次号もよろしくお願ひ致します。

CNAレポート・ジャパン 橋本 啓介